

新ホームで、七学年「若手の会」

集え！調布新校舎卒業生！



二〇一五年一月二十六日(日)、調布新校舎卒業の七学年を対象とした、総明会「若手の会」が開催される。この試みは、「調布新校舎を、卒業生の新たなアイデンティティの拠り所としたい」という安藏伸治校長の思いから生まれたもの。初の試みということもあり、予定よりも小規模の開催となる見込みだが、若手のエネルギーから生まれる「何か」に期待したい。



二〇一五年一月二十六日
 総明会『M(エム)』
 「若手の会」特別復刊号

明治大学付属明治中高
 同窓会(総明会)
 編集…総明会組織委員会
 『M』復刊部門
 構成…三浦イラスト工房

※『M(エム)』とは、かつて総明会の若手会員が中心となって編集していた、機関誌のタイトルです。総明会版の『過程』と違った位置付けだったそうです。本誌は、その『M』の名前をお借りしています。

羽田圭介さん (H16年卒)



フハハハハ、君が羽田君かね。おめでとう！

ついに！ 明治中高から芥川賞！

明治高校卒業生の羽田圭介さんが、第一五三回芥川賞の栄冠に輝いた。羽田さんは、明治高校在学中に『黒冷水』で文藝賞を受賞。芥川賞受賞後は、メディア露出も増加。デーモン閣下メイクでの熱唱、声楽や鶏ハム作りの披露など、謎に満ち溢れた私生活からも目が離せない。



本誌記者が、一〇月二四日に開かれた、羽田圭介さんと中沢けいさんの対談イベントに潜入した。羽田さんは対談中、何度も明治中高の名を口にした。文藝賞受賞時の祝賀会に(腹を空かせた)高校の同級生たちを招待したところ、史上稀に見る早さで料理が無くなり、周囲を驚かせたという逸話も披露。

速報

棟朝銀河選手、リオ五輪代表に

明治高校在学中にユース五輪(トランポリン)に出場、銅メダルを獲得した棟朝銀河さん(H25年卒)が、ついにリオ五輪の出場枠を手にした!! 現在は慶大3年生。11月29日に最終日を迎えた世界選手権において、8位で決勝に進み、日本体操協会の選考基準を突破した。「五輪は初めてで失うものはないので、攻めていきたい」とのコメントが報道されている。

芥川賞の次は五輪だって！



社説

若手会員が総明会活動に関わるために

OB OG進路相談会や「若手の会」の実施を通し、若手会員の一部にも、総明会活動に積極的に携わってほしいという機運が盛り上がりつつある(?)。そんな中、「二分の一幹事学年」とも言うべきアイデアが、議論の俎上上がっている。近年各地の小学校で、一〇歳の節目を祝う「二分の一成人式」なるものが開催されているという。「二分の一幹事学年」は、そうした現象に

2分の1 幹事学年制度!?

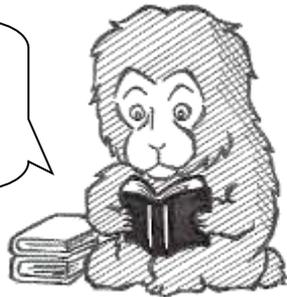
着想を得たもの。総明会ではしばしば、高校卒業から幹事学年担当(満四五歳)までの期間が長すぎるのではとの意見が出されてきた。「二分の一幹事学年」構想は、二〇代のうちに、進路相談会などの企画を担うことで、こうした空白を埋めようとするもの。安蔵校長は、毎年調布校舎でホームカミングデーを催し、その企画を若手「幹事学年」が担うことにすれば良いのでは、と考えている。

頼んだぜ! 新クラス幹事さん

総明会クラス幹事に、今年3月に卒業したばかりの14名(H27年卒)が加わった。共学化初年度学年(H23年卒)の卒業以降は、各クラスから男女1名ずつの代表を募ることになっている。クラス幹事の学年代表者である評議員には、赤坂菜摘さんと渡邊直人さんの2人が就任した。

卒業式直後の3月14日には、総明会組織委の主催で、新クラス幹事との食事会も開催。

新クラス幹事の皆さん、末永くよろしく
お願いします!



来年度の講演依頼予定メンバー13人

飯塚亜里紗さん	法・法
清野圭介さん	商・商
福德萌花さん	政経・政治
遠藤幹也さん	政経・経済
青木謙太さん	政経・地域行政
柴間今日子さん	文・文
内田恵吾さん	文・史学地理
藤森一さん	文・心理社会
木村佳世さん	経営・経営
管野千登さん	経営・会計
小熊進之介さん	経営・公共経営
朝倉貴紀さん	情コミ・情コミ
河野夏帆さん	国日・国日

メンバーの皆さん、後輩たちのために、
ぜひ力を貸して下さい!

OB OG 進路相談会に、社会人1、2年目

六月一三日(土)、明治高校三年生を対象とした、OB OG進路相談会が開催された。例年、大学四年生が講演を行っていたが、就職活動時期の大幅な変化により、本年は社会人一年目(共楽会)、二年目(明雄会)の卒業生が講演を担当することとなった。初の明治高校・総明会組織委員会共催イベントとしても注目を集めた。

従来は、高校在学時の進路選択の経験や、入学後の学生生活の話が中心だった進路相談会。今年は、第一部で従来通りの学部学科ごとの講演を行い、第二部では大学卒業後の進路(就職活動など)に関する講演を行う、という二部構成での開催が試みられた。「大学への道」のみならず、「大学からの道」についてもイメージを膨らませることが出来る本企画。高大連携主任の関根正人先生や、講演を聞いた生徒たちの評価も上々だった。来年度は、現大学四年生に講演を依頼し、足りない学部学科については、明雄会・共楽会から講演者を募ることになりそうだ。



脱「名無しの権兵衛」！命名特集

二〇一五年三月三日、平成二三年卒の大学卒業前期会が開催され、会の名称が正式に決定した。共学化初年度学年のアイデンティティを生かし、「共楽会(きょうがくかい)」と命名。男子も女子も、旧校舎を知る者も知らない者も「共に楽しむ」という意味を込めた。

一つ上の平成二二年卒は、男子校最後の学年ということもあり「**明雄会**」。男を表す漢字の中で、「雄」の字を選んだセンスが光る。

平成二六年卒の「**ゆいまーる**」は、由井先生のお名前と、修学旅行先の沖繩に材を取った斬新な命名だ。



H21	
H22	明雄会
H23	共楽会
H24	
H25	
H26	ゆいまーる
H27	

調布校舎卒業7学年

命名パターン	具体例
① 「明〇会」	「明翔会」「明輪会」「明雄会」
② 「〇明会」	「翼明会」
③ 卒業年次	「紫讃会」「四七四七同志酔会」 「翼明会」「昭和戊辰乃会」
④ 明校関連のワード	「猿楽会」「明高会」「明治会」「男坂倶楽部」「白雲会」
⑤ その他	「新世輝」「ゆいまーる」

「名前の歴史」を研究する院生

三浦直人氏(二三)のコメント

明治期以降、名前は一人一つに固定されましたが、それ以前の日本では、年齢に応じて出世魚のように名前を変えていくのが普通でした。同期会の名前も、最初から「確定版」を目指す必要はない。年齢に応じて変えることを前提に、今の自分たちに合った等身大の名前を、「とりあえず」付けられたいのではないのでしょうか(談)

★アミ閉店！★

明大生に愛され、何度か「若手の会」会場にもなった「アミ」が、惜しまれながら閉店した。焼肉ライスを食べることも、もう叶わない。今まで有難うございました。

卒業生の活躍！
惜しくも優勝に届かなかった東京六大学野球の秋季リーグ。今年も、神宮で明治高校卒業生が大活躍を見せた。
快進撃を続けた硬式野球部の主務は、明治高校の元応援団長・岸上翔平さん(クラス幹事)。明治大学応援団では、団長として渡邊海翔さん、バトン・チアリーディング部責任者として東儀沙弥さん(クラス幹事)が活躍する。



反省人語

物語のあらましを示すのに、「ひよんなことから」という言葉ほど便利なものはない▼ひよんなことから猫型ロボットに遭遇し、ひよんなことから願いの叶う七つ玉を集め、ひよんなことから、三分間しか戦えない光の巨人と一体化する。物語はいつだって、「ひよんなことから」始まる▼さて、ひよんなことから総明会組織委員の末席を汚すことになった筆者は、これまたひよんなことから、今や幻になりつつある雑誌、『M』の復刊を目指すに至った▼諸先輩方が尽力したかつての『M』には及ぶべくもないが、総明会若手会員による活動の、小さな一歩になれば良い▼「若手の会」は、参加者同士が、進路や学生生活、そしてアイデンティティのよりどころの一つである「明治」をめぐる、自由に対話する場でもある▼今回の「若手の会」が、誰かの物語をスタートさせる、「ひよんなこと」になるよう願ってやまない(三浦)

**H21年卒、
「30歳までに！」**

調布卒業第一号の平成二二年卒。中高、そして大学の応援団で活躍した加藤敦さんが、『総明会50周年記念誌』に、初めて寄稿した。加藤さんは文中で、「明治高校で築いた繋がりをこれからも大切にしていきたい」と述べ、同期へ向け、「30歳までには一度集まろう」と呼びかけた。

『M』復刊に寄せて 駒形くみ子先生ご寄稿

受験相談会などで、受験生や保護者の方と個別にお話しする機会が度々ありますが、そんな時に「部活動などで高校生が中学生の指導をしたり、卒業してもコーチやOBOGとして活動に関わってくれる、いいお兄さんお姉さんがたくさんいますよ」という話をすると、例外なく相手の目が輝くという経験があります。本校では日常的に目にする光景ですが、異年齢の学生・生徒間の温かな交流が連綿と続いているというのは、考えてみると本当に素敵な環境ですね。先輩に教えてもらったこと、してもらって嬉しかったことを、当然のように後輩に受け継いでいく。私達教員が学ぶことも多い、本校の静かな伝統です。

『M』復刊、おめでとうございます。このような血の通ったメディアが、改めて出会いと語らいのきっかけを提供してくれるであろうことを、ちょっと古株になりつつある教員の1人として大変嬉しく思います。



明治魔法学校
マコガタナル先生

【明雄会・進路アンケート】

平成二二年卒「明雄会」の亀屋将紀さんが、同期を対象とする進路アンケートの実施を目指している。亀屋さんによれば、従来明治中高の学校紹介パンフレットにおいては、「進路」のコーナーが、大学進学までのデータに留まっていた。卒業後の進路については、個別のインタビューのみの紹介であり、就職などの全体的なイメージが掴みにくかったという。そこで亀屋さんは、同期への進路調査アンケートを実施することで、こうした課題を解消しようと考えた。卒業生として母校のためにできることを考え続けた結果だ。

**元「初の女子応援団長」
司会の大役果たす！**

11月7日(土)の総明会総会・懇親会で、H25年卒の押田華穂さん(評議員)が総合司会の大役を果たした。押田さんは在学中、応援指導班初の女子団長として活躍。その奮闘ぶりは、「ザ・ノンフィクション」(フジテレビ)でも紹介された。ちなみに、司会効果もあってか、当日の平成卒出席者は102名に及んだ。



成人パーティーに向けて

平成二六年卒「ゆいまーる」が、来年一月の成人式に向けて本格的に始動。評議員の岡田尚也さんが、『総明会50周年記念誌』への寄稿で明らかにした。ここ数年、明治高校卒業生が、大規模な成人パーティーを開催し、話題を呼んでいる。「ゆいまーる」も、その良い流れを継承してくれそうだ。

★今回は、あくまで『M』のお名前を借りての発行という形でしたが、今後は、先輩方にご指導いただきながら、本格的な復刊を目指して活動してまいります。お力を貸して下さる方、ご興味のある方は、是非三浦までお声がけを！